



自分たちの授業を振り返る ～レベルアップ大作戦～

主体的な授業とは？



1月末、自分たちの授業を振り返ってみようという生徒集会が行われました。自分たちの授業について自分たちで考えるという集会は今年3回目です。今回は、事前に全生徒からとった「授業のルール4か条」に関するアンケート結果を元に考えました。

アンケート結果から、川北中学校の生徒は、「進んで授業準備をし、話を聞き、考えを持って

いるが、それを上手く意思表示できていない」という結論に至ったようです。そこで、積極的に自分の考えたことを意思表示する、すなわち主体的に授業に参加するとはどういうことか、主体的な授業とはどういう授業なのかについて、講堂に集まった全校生徒参加の授業形式で考えました。


まずは、全員がCB（クロームブック）を持ち寄り、数学の問題について、個人で、グループで、全員で考え、発表しました。全校生徒の前でも臆することなく発表できた人もいて、とても盛り上がり深まりました。

次に、主体的な授業について、一人一人が考えました。CBとメンチメーターを使い、生徒会執行部の進行で、一つ一つの考えをまとめていきました。その結果が、下のスライドに表されたものです。

授業は、先生が説明しそれを生徒が静かに聞くというものではありません。自分で課題（何を学ぶか）を見つけ、自分で調べたり考えたりし、それを周りに感想や意見として伝え、聞き、また新しいことを考える。それが本当の授業だと思います。そんな授業もこれから増えてくるでしょう。将来的には、教室では、みんなの考えや意見が飛び交い、先生の声はあまり聞こえない。そんな授業になってほしいと思います。自分たちの授業を自分たちで盛り上げていてください。本当にすてきな生徒集会でした。

授業のルール4か条とは

1. 進んで向かう授業の準備
2. 話を聴く
3. 考えを持つ
4. 意思表示する



授業レベルアップ大作戦

1. 積極的な挙手
2. 全員参加のグループワーク
3. 自分と相手のための聞き方
4. 自ら選択自己決定

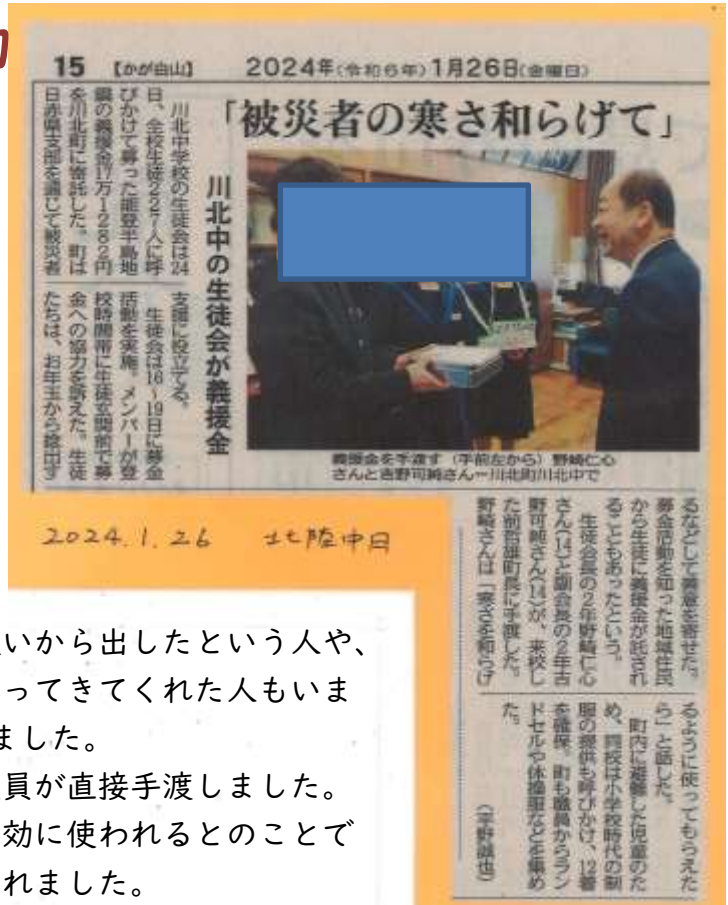


能登半島地震募金活動

1月1日に発生した令和6年能登半島地震。多くの犠牲者を含め、大きな被害が出たことは皆さんも知っての通りです。生徒会から、自分たちも被災者のために何かできることをしたい、という声が上ががり、まずは募金活動を行いました。

1/15(月)に、校内放送を使って生徒会執行部が募金活動への協力を全生徒に呼びかけ16(火)~19(金)まで、毎朝生徒玄関で募金活動を行いました。中には、お年玉や自分のお小遣いから出したという人や、近所のお年寄りから託された募金を持ってきてくれた人もいました。合計金額は、171,282円になりました。

集まった募金は前町長さんに生徒会役員が直接手渡しました。日本赤十字社を通じて被災された方に有効に使われるとのことです。新聞各社でも記事として取り上げられました。



立志式

2年生を対象に、川北町主催の「立志式」が行われました。立志式とは、歴史的に「元服」に由来する行事で、大人への新しいスタートに立つ日としてお祝いする会です。2年生では、この日の前に自分の現状と未来について考えることも行い、大人になることについて気持ちを新たにしました。式辞で前町長さんから、「春からは最上級生。志を立てることの大切さを考えてほしい。」と皆さんにエールが送られました。



その後、ドイツでサッカーのマネジメントで活躍していらっしゃる野々市市出身のKIOT CONNECTIONS代表 河岸 貴さんから、「『国際社会と川北町』~グローバル化する世界で生き残るには~」と題して、記念講演をしていただきました。河岸さんからは、「一瞬一瞬を大切にすること」や「自分のストーリーを書くことは未来の自分を描くことにつながる」というお話があり、「毎日、一生懸命生きてほしい」というメッセージが伝わってきました。

